

# 平成 28 年度 第 1 回西淀川区教育会議 会議録

1 開催日時：平成 28 年 7 月 19 日（火）午後 2 時 00 分～午後 3 時 10 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 区長応接室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50 音順）

竹本、延原、浜本、森本

（事務局：西淀川区役所）

塩屋区長、橋本副区長、高安教育支援課長、九之池教育支援担当課長代理

小林教育支援担当係長、若松係員

（教育関係者）

池内西淀中学校長・高橋姫島小学校長

4 次第

（1）委員ならびに関係者の紹介

（2）平成 28 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長枠）の事業説明について

（3）その他

5 議事内容

（1）委員ならびに関係者の紹介について

- ・委員並びに教育関係者として小中幹事校長紹介
- ・事務局紹介
- ・区長あいさつ

（2）平成 28 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長枠）の事業説明について

（区役所）

- ・校長経営戦略支援予算（区担当教育次長枠）とは「区担当教育次長への分権を図り、分権型教育行政を進めていく。」ということで、教育行政における「ニア・イズ・ベター」の観点から、学校や地域、保護者により近い区役所がそのニーズや意向を的確に把握して総合的な教育行政を推進できるように設けられたもので、学校の枠を超えて実施してほしいなどの要望がある場合、各学校の要望を踏まえ、区担当教育次長が区内の全小中学校を対象とした事業を企画して実施することになっている。

- ・西淀川区としては、地域の実情を踏まえたキャリア教育として、市内有数の「ものづくりのまち西淀川」の特性を活かし、児童生徒に向けて「ものづくり」について学ぶ機会を提供する事業を実施する。
- ・世界の技術イノベーションを象徴する「3Dプリンタ」は、子どもたちが技術の変化を理解するのに良いツールであり、アイデアや発想を形にすることができるため、想像力を刺激し、自発的な学習意欲を掻き立てることができるものであると考える。
- ・世界的に教育界への導入が進んでおり、日本は大きく後れを取っている。教育の情報化の動向としては、内閣府（未来の科学技術イノベーション人材を育成する教育改革）や文部科学省（小学校でのプログラミング教育の必須化を検討）において、2020年や2030年を見据えた議論が報告されている。
- ・事業概要としては
  - ①ものづくりまつり（8月21日（日））での3Dプリンタブースの出展
  - ②教員対象の事業所見学会を実施
  - ③教育分野での活用についての検討会の実施
  - ④その他（希望校に貸出など）
 を予定している。

（議長）

- ・当校においても、平成20年度に校舎を改築した際に、全教室の黒板をホワイトボードに変え、プロジェクターを各教室に配備し、映像やパワーポイントを用いて、授業を行えるようにしている。
- ・メリットとしては、以前は教員が英語の文章などを板書するのに時間がかかったが、プロジェクターですぐに文字を映し出して説明することができるようになったことや、教科によっては映像・写真・図などを見ることで理解が早まったことがあげられる。デメリットとしては、教室を暗くするので眠くなることや、すでに映し出された内容に教員が書き込む場合工夫がいることや、映し出す資料を配ると生徒が何も書かずに授業が終わってしまったりすることがある。
- ・便利でビジュアル的に理解しやすい一方、教員も生徒も手抜きになる可能性がある。
- ・また、凝った資料や教材作りに時間がかかり、作ることが仕事になってずっとパソコンの前にいることがある。やはり教員は生徒に対してフェイストゥフェイスでないといけないと思う。そういったメリットデメリットはある。

（委員）

- ・3Dプリンタ自体を見たことがないので何を言えばよいか分からない。何も分からないので議論できないのが現状である。

(区役所)

- ・何に活用できるのかと聞かれた時、区としても初めは分からないことが多かったので、市経済戦略局担当者に聞くなどして、関西のあらゆる3Dプリンタ事業者に相談した。いろいろな機器があって、材料も金属・プラスチック・ゴム・繊維など多種多様であり、何に使うのか問われると一言では表せられないほど多岐にわたる。試作品を作る際には、ローコストかつ短時間でできるため、画期的であり、ものづくりの仕組みを根底から変えていく可能性があると言われている。

(委員)

- ・2～3年前にテレビで観たが、医学の分野で心臓や肝臓の完璧なコピーができる。細部まで再現されるため、手術の練習ができる。インターンや学術的にもリアルな勉強ができる。
- ・小中学校でどのように関心を持たすことができるか。具体例を3～4つあげて、また今までは違つかたちのものづくりであるということを説明できる人に詳しく説明してもらうことが必要。そうしないと、そこまで学校が推進して大事なお金を使ってやる必要があるのかというのを保護者も感じるのではないか。

(区役所)

- ・心臓外科の医師が患者の心臓と同じものを出力して、事前に手術の練習をしている病院もあると聞いている。おっしゃるとおり、説明できる人に解説してもらったり、子どもたちに興味を持ってもらったりできるような取組が必要。ものづくりまつりでは、3Dプリンタ事業者に来ていただき、専門家の協力のもと作成するチラシを配布して、こういうことに使えるということを知っていただく機会になるようにしたい。

(委員)

- ・いろいろなことを経験した高校生ぐらいなら意味や良さ等が分かると思う。小学生に伝わるのか、使う先生方も伝えられるのか、教育現場に導入するにはどれぐらいの年齢がいいのかなど、これから話し合っていかれると思うが、ものづくりのまちということであれば、工場見学とか小中学校の社会見学に導入するなど、段階を踏めば子どもたちも興味を持ちやすいのではないか。

(議長)

- ・当校でも3Dプリンタについて聞いてみたが、化学の分子構造の立体を理解するのに適しているという意見があった。立体で理解を深めるにあたり、出来上がった完成品を見るのは意味があるが、そこに至るまでのプログラミングが、今後の教育で大切といわれているところではないか。小中学校において、プログラミング教育と3Dプリンタが一体にならないと本来の教育としてはあまり意味がないのではないか。おそらく今の日本では大学レベル程度ではないか。

(区役所)

- ・プログラミングは、2020年頃には小学校の教育に導入されることが想定されている。今年に入り教育におけるICTについても急速に進んでおり、西淀川区の子どもたちが少しでも体験していれば今後有利になる可能性がある。

(中学校幹事校長)

- ・3Dプリンタを実際に見たことはないが、中学校でいえば数学や美術で活用できるのではないかと。

(小学校幹事校長)

- ・3Dプリンタを実際に見たことはないが、前の学校で大学の先生とコラボし、自走式のロボットをプログラミングし、サッカーゲームをするという取組を行っていた。特定の子どもたちから始まったことであるが、5・6年生全員がプログラミングを体験した。理屈は分からなくても、順番にプログラミングをし、大学の協力も得ながら約2時間で全員がロボットを動かせる程度までできるようになった。子どもたちには非常に好評であった。想像以上に子どもたちのこういったものの取り込みは早い。その最たるものが、スマホやSNSである。国語が苦手な英語、算数が苦手なプログラミングを進めるのは不安があるが、正しいプログラミングも含めて今後「教育」として入ってくるであろうから、どう整合させていくかが課題。しかし、いろいろなことに興味を持って取り組んでいくことを大人が支援するのは必要なことであり、そういった場を提供してもらうのはありがたいことである。学校現場でどう活用していくかとなると、学校はやはり漢字や計算力を上げていくことに力を入れていかないといけないが、逆にそういったことに特化していったら、いろいろな可能性を与える手立ての一つとして導入してもらえればありがたい。ただ、何をするにも人とモノとお金が必要となる。どれだけの教員がそれを支えられるのか、どれだけ時間が取れるのかは未知数なので、本来の取組の隙間の時間しか取組めないだろうと思う。いろいろなことを見せていただいたり、挑戦させていただいたりということについては、学校としてはありがたいし、教員も教育現場しか知らないのでは、企業のチャレンジ精神を知っておくのも大事だと思う。

(議長)

- ・新聞にプログラミング教育の是非について記事が出ていた。女性二人の先生が紹介されていたが、一方は、論理的思考を養うのに必要であり小学校から導入すべきという意見であり、もう一方は、論理的思考を養うのには国語の読解力の向上ではないのか。ただ、プログラミングが必要なことは間違いないので、例えばクラブ活動などでやりたい子どもはやれる環境にしてはどうかという意見であった。

(区長)

- ・校長経営戦略を支援する予算として、今年度初めて区担当教育次長執行枠が設けられた。今後も校長先生方と意見交換し、マッチングしながら充実した予算としていきたい。

(3) その他

(区役所)

- ・昨年度の教育会議でお知らせした西淀川区の図書環境の充実に向けた取組について、図書に興味のない方にどう働きかけていくかという意見があった。図書に興味を持つきっかけづくりとして、昨年度は、夏目漱石と宮沢賢治の周年に合わせたイベントを実施した。
- ・今年度は、従来個別で実施していた人権（子ども映画会）・生涯学習（親子工作）・図書の3つの事業を合わせたイベントを企画している。3つの事業を合わせて開催することで、図書に関心がない方や他事業目当てで来られた方も図書イベントに立ち寄ることができる。また、3つの会場をスタンプラリーをしながら回れるような工夫も検討している。
- ・図書部分については、図書ボランティアや区長のオススメ本の紹介や西淀川区出身の落語家による落語や区長の読み聞かせ予定している。
- ・また、親が本を読まなくなっているという意見もあったが、子どもが乳幼児のころから親とともに図書に親しめるよう区役所で実施している乳幼児検診等の際に、図書の重要性を訴えるようなチラシを配布するなど検討を進めている。

(区長)

- ・教育会議という場をお借りして、ご意見をいただきたい。平成26年度から始まった学校選択制について、学校案内という冊子を作成している。その中で、各学校の特色や行事、学力や体力調査の状況、卒業後の進路等を掲載している。
- ・すでに新聞報道等で目にした方もおられると思うが、中学校の卒業後の進路について、進学先の校名と人数を掲載してはどうかということが議論されている。区役所としても、検討していかなければならないが、どこまで掲載するかについてご意見があれば参考にお聞かせいただきたい。

(委員)

- ・学校選択制について、学校に特色を持たせていくとしているが、学校を運営していく校長先生は3年程度で変わるので、特色を出せるのか疑問である。校下の進学先に入りたいクラブ活動がないから、入りたいクラブ活動がある学校を選択したが、4月の異動で指導する先生がいなくなりクラブ活動がなくなったという話も聞いている。
- ・進路については、他の区のPTA関係者の間では、そこまで掲載する必要はないという意見が多い。そこまで競争させないといけないのか。義務教育なので、どの学校でも同じ教育を受けられるのが当たり前のはずなのに、競わせて学校に優劣をつけ、教員の負担が増えているのではないか。

- ・どこでも安心して教育を受ける環境を整えてほしい。

(区長)

- ・今年も来年度に向けて学校案内が作成されるが、どの学校でも安心して進学できるということは説明していきたい。8月末には対象のご家庭に届く予定。

(委員)

- ・夏休みの時期ぐらいに、どの学校がいいのか考えたいが情報が無い。小学校に直接電話するわけにもいかない。昔は決められた学校に行くしかなかったので、何をもって選ぶのかよく分からないし、選択のメリットも分からない。学校の情報収集も、近所の方の口コミぐらいしかない。学校案内もいつももらえるのか知っている人も少ないのでは。8月末にもらってから考えるのでは遅い気がする。
- ・イベントに見学に行きたい。先生方の子どもに対する接し方を見たい。学校を知ることが保護者にとって重要なことである。情報もうわさだけが走ってしまうため早めにいただけると保護者は安心する。

(区長)

- ・いろいろなご意見をいただきながら、より良い学校になっていくよう、地域と保護者のみなさんといっしょになって学校を支援したい。

○次回日程について

(区役所)

- ・次年度の予算要求に向けて、7月末から8月にかけて区長が各小中学校を訪問し、各学校が抱える課題をお聞かせいただくとともに、教育について幅広く意見交換をさせていただき、その後、区として予算を検討し、教育会議でも予算案を提示し、委員の皆様のご意見をいただきたいと考えている。したがって、次回の開催は9月末から10月を予定している。